

XI WebNACCS <4>

平成27年12月9日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社



1. これまでの合同WGにおける提案（1）

第10回合同WG（H26.10.21）※において、以下のとおり、WebNACCSの基本的な考え方及び対象業務について提案を行っている。 ※ 第13回合同WG（H27.1.15）の中間報告の際に一部修正(該当部分.....)。

区 分	概 要
1. 個別検討事項	Webインターフェース対象業務の拡大
2. 現行仕様	CY搬出入業務、APS業務においてWebインターフェース業務を提供している。
3. 見直しの経緯 (利用者の要望等)	① 利用者から、入出港業務（海上）及び照会業務（航空・海上）について、Webインターフェースによる業務提供の要望がある。 ② 業種・業務によっては現行パッケージソフトが提供する高度な機能や操作性を必要としないケースがある。
4. 次期仕様	経済性や機能性を考慮したうえで、以下の業務を対象としてWebインターフェースの対応を図る。
5. 対象業務	① 入出港業務（海上） ② 照会業務（航空・海上） ③ 既存Web業務 ④ 包括保険申請手続き関連（航空・海上） ※ ①～④の詳細については、過去のWG資料等参照。

1. これまでの合同WGにおける提案（2）

区 分	概 要						
6. 導入に係る基本的な考え方	<p>1. Webインターフェースについては、基本仕様において提案したとおり、新たなユーザインターフェースとして対象業務の拡大を実施する。（対象業務は限定的なものとし、第6次NACC稼働後の利用実態等を踏まえ、対象業務の拡大を改めて検討する。）</p> <p>2. Webインターフェースについては、PC、タブレット及びスマートフォンにおける利用を検討するが、スマートフォン用に特化した画面の提供については実施しない。</p> <p>3. ただし、上記端末の利用については、現行NACCと同等以上のセキュリティーの確保を前提（少なくとも、netNACCにおいて採用しているデジタル証明書相当、利用者ID及びパスワードによるセキュリティーレベルを確保）とする。</p> <p>なお、具体的なセキュリティー対策については、ネットワーク提供ベンダーの決定を待って検討を進めることとし、検討の結果、端末の種類によってはセキュリティーの確保が困難と判断されるケースも考えられるが、その場合は、一部端末の利用を認めないこととする。</p> <p>4. Webインターフェースにおいて利用可能なOS、ブラウザについては、費用対効果の観点から、以下の種類に限定する。</p> <table border="1" data-bbox="450 939 1816 1120"><thead><tr><th>対象機器</th><th>OS</th><th>ブラウザ ※2</th></tr></thead><tbody><tr><td>PC</td><td>Windows 7 (SP1) Windows 8.1※1</td><td>Internet Explorer Chrome Firefox</td></tr></tbody></table> <p>※1：Windows 8.1の後継OSであるWindows 10への対応については、今後の動向を踏まえて検討する。 ※2：PCの各ブラウザの対応バージョンについては、今後の動向を踏まえて検討する。</p>	対象機器	OS	ブラウザ ※2	PC	Windows 7 (SP1) Windows 8.1※1	Internet Explorer Chrome Firefox
対象機器	OS	ブラウザ ※2					
PC	Windows 7 (SP1) Windows 8.1※1	Internet Explorer Chrome Firefox					

1. これまでの合同WGにおける提案（3）

1. 対象OS等の見直し

これまでのWGにおいては、次期システムでWebNACCSの利用可能なOS及びブラウザを前頁の表のとおり、提案していたところであるが、以下の【検討経緯と理由】(①、②)から【見直しの内容】(③)のとおり見直しを行うこととする。

【検討経緯と理由】

- ① これまでの経緯にあるとおり、WebNACCS導入の前提として、現行NACCSと同等（netNACCSにおいて採用しているデジタル証明書相当のセキュリティレベル）以上のセキュリティーの確保を必須とする必要がある。
このため、具体的なセキュリティ対策について、ネットワーク提供予定ベンダーと検討を進めてきた結果、現時点では、デジタル証明書の採用が最善と考えられ、目下のところ、これに代わる適当な方法はないとの結論に至ったところである。
- ② 次期システムでのWebNACCSの利用において、デジタル証明書の導入を必須とすることについては、
 - ㊦ 既存OS等では、既にnetNACCSにおいて採用しており、特段の問題はない。他方、
 - ㊧ 次期での使用を想定していたタブレットや携帯端末等のOS等については、その導入には、新たなアプリケーションの開発が必要で当該経費は小さくなく、また、利用者側においても新たな方法の採用となり当初混乱を招く恐れがある。

【見直しの内容】

- ③ このため、次期システムの稼働当初においてWebNACCSがどのような形で利用されるかは予測困難な状況にあり、費用対効果等を踏まえれば、タブレットやスマートフォンにデジタル証明書をインストールするためのアプリケーションの提供及びこれら機器におけるWebNACCSの動作保証については、当面、見送ることが適切であると考えられる。
なお、次期の稼働以降において、利用状況及び利用者ニーズ等を踏まえながら、必要な見直しを検討することとしたい。

2. WebNACCSの対象機器及び対応OS、ブラウザ（再提案）

WebNACCSで対応するOS、ブラウザについては、以下のとおりとする。

対象機器	OS	ブラウザ ※2
PC	Windows 7 (SP1) Windows 8.1※1	Internet Explorer Chrome Firefox

※1：Windows 8.1の後継OSであるWindows 10への対応については、今後の動向を踏まえて検討する。

※2：PCの各ブラウザの対応バージョンについては、今後の動向を踏まえて検討する。

2. We b N A C C S の対象 O S 等の再度の見直し（新規提案）

1. 対象 O S 等の再度の見直し

これまでのWGにおいては、次期システムでWe b N A C C Sの利用可能な O S 及びブラウザ を前頁の表のとおり、提案していたところであるが、以下の【検討経緯と理由】(①、②)から【見直しの内容】(③) のとおり見直しを行うこととする。

【検討経緯と理由】

- ① 第6次N A C C Sの更改予定時期（2017年10月）を考慮すると、Windows 8.1の後継OSとして既に発売されているWindows 10への対応は必要と考えられる。また、Windows 10の標準ブラウザであるEdgeへの対応も可能な範囲で進める必要がある。
- ② 第6次N A C C Sの開発に要するコストを抑制するために、We b N A C C Sにおいて対応するブラウザは一定範囲に限定する必要がある。

【見直しの内容】

- ③ このため、第6次N A C C SのWe b N A C C Sにおいて、Windows 10及びその標準ブラウザであるEdgeに対応することとする。これによるコスト増大を抑制するため、これまで対応ブラウザに含めていたFirefoxを対応ブラウザから原則除外することとする。

2. We b N A C C S の対象機器 及び 対応OS、ブラウザ（再々提案）

We b N A C C Sで対応するOS、ブラウザについては、以下のとおりとする。

対象機器	OS	ブラウザ ※ 1
PC	Windows 7 (SP1) Windows 8.1 Windows 10	Internet Explorer Chrome Edge

※ 1 : PCの各ブラウザの対応バージョンについては、今後の動向を踏まえて検討する。